

しょうげき～衝撃～

# Show Get-key

第58期中間事業報告書 2004年4月1日から2004年9月30日まで

オートバックスセブン  
株主通信

Vol.9



## ごあいさつ

第58期中間期のご報告

「オートバックス」ブランド

## 誕生30周年

カー用品情報

ついに実用化! **ケータイカーナビ**

## ARTA活動報告

2005年版オートバックスオリジナル

## カレンダープレゼント

オートバックスグループの使命

## 「世界中のドライバーを車好きに変える」 「車好きのユートピアをつくる」

二つの大義を実現するため、私たちオートバックスグループは、  
カーライフスタイルの創造者として行動します。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今回お届けするオートバックスセブン株主通信「Show Get-key」Vol. 9では、第58期中間期業績の報告に加え、30周年を迎えた「オートバックス」ブランドの誕生物語などをご紹介します。カー用品のワンストップショップを日本で初めて開いた創業者・住野利男から脈々と続く、弊社のお客さま本位の姿勢を感じ取っていただければ幸いです。

### 当中間期(2005年3月期)のご報告

当中間期の日本経済は、企業収益の大幅な改善や完全失業率の低下傾向など、堅調に回復しました。しかし一方で、国庫に対する国民の負担が増える見通しになったこと、また原油価格高騰による世界経済への影響が懸念されるなど、先行き不透明感が払拭されず、消費者心理の大きな盛り上がりは見られないままに終始しました。

カー用品業界においては、ETC車載器が道路3公団による購入支援制度や機器の低価格化・多機能化が進んだことで、好調な売れ行きを記録しました。しかしながらここ数年市場を牽引してきたカーナビゲーションが、主に自動車メーカーによる標準装着が進んだために陰りを見せ始めるなど、全般的には厳しいままに推移しました。

オートバックスグループはこのような状況に対応するため、下に詳述する「エリアドミナント戦略」と「トータルカーライフ事業戦略」の2戦略を軸に、成長軌道への転換と財務基盤の再構築に努めています。この結果売上高は、特にタイヤや中古カー用品の販売お

### 目次

- |                                   |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1 ● ごあいさつ                         | 9 ● 財務報告                       |
| 5 ● ショーケース<br>「オートバックス」ブランド誕生30周年 | 15 ● 株式情報                      |
| 7 ● カー用品情報<br>ついに実用化! ケータイカーナビ    | 16 ● 会社情報                      |
| 8 ● ARTA 活動報告                     | 17 ● トピックス                     |
|                                   | 18 ● オートバックスグループ<br>ホームページのご紹介 |

よび車検・整備などのサービス売上が健闘し、前年同期比微減に留めることができました。また広告宣伝費を含む販売費削減などによって、経常利益を改善しています。しかし減損会計の早期適用に伴う減損損失を特別損失が発生したことにより、中間純損失となりました。

### 戦略に沿った事業展開

弊社の主戦場であるカー用品市場は、年々規模が縮小する傾向にあります。これは、自動車メーカーにおける電装品の標準装着が進んでおり、自動車購入後に手を加える機会が減っていること、また車両や部品の性能が向上し耐用年数が長くなってきていることなど、複数の要因が折り重なって起きているためです。今後カーエレクトロニクスなどで短期的に市場が活性化することは予想されますが、長期的・全般的な縮小傾向に歯止めをかけることは難しいと考えています。

このような状況を受けて同業他社が苦戦を強いられシェアを落とす中、オートバックスグループはお客様のニーズ変化に即応する態勢をとり、逆にシェアを伸ばしています。現在、この傾向を今後も続け継続的な成長を実現するために、「エリアドミナント戦略」と「トータルカーライフ事業戦略」の2戦略を中心に事業展開を行っています。全ての施策は、延長線上に「世界中のドライバーを車好きにする」と「車好きのユートピアをつくる」というオートバックスグループの大義の実現も見据えたものです。

#### エリアドミナント戦略

- ・業態・フォーマットの多様化
- ・店舗の最適配置

#### トータルカーライフ事業戦略

- ・サービスの拡充
- ・商品とサービスのクロスセリング

エリアドミナント戦略では、日本全国を人口や地域の特性をもとに「エリア」と呼ばれる商圈に分け、それぞれの特性にあわせて用途の異なる複数の業態を展開することと、店舗間で横のつながりを持って機動的な対応をすることで、あらゆるお客さまの多様なニーズに応えようという戦略です。当期中に



エリア分けを終える予定で、今後は既存店の整理と業態転換、新規の出店などで店舗網の整備を進めていきます。またこれまでカー用品店をあまりご利用になったことのないお客さまが気軽に利用できる、消耗品中心の小商圈型店舗の開発・展開も検討しています。同時にエリア内での相乗効果を上げることができるよう、この新たなフォーマットを含め業態間連携を強化する取り組みも行います。

トータルカーライフ事業戦略は、主たる事業であるカー用品事業の充実と強化に加え、提供できる商品やサービスの幅を広げることで、お客さまのカーライフの全ステージにおけるニーズを取り込もうというものです。これには現在注力している車検・整備事業や車販売事業などが含まれ、新たな収益源になると同時に、カー用品事業と相互に作用しあってより大きな効果を上げることができるものと考えています。

当中間期中も、上記の両事業戦略を着実に推し進めました。車検・整備や板金・塗装を含むピットサービスの拡充については7月に、テスト施設である「テクノキューブ」をオープンしました。「テクノキューブ」は特に車検・整備事業強化のための施設で、ピット数が少なかったり「指定認証工場資格」を取得できない店舗（主に「オートボックス」業態）の近隣に設置し、これを補完する働きをもたせます。「指定認証工場資格」は自店舗で車検の受付～検査～整備事業を行うことのできる資格で、近年の規制緩和で

取得が比較的容易になったものの、用途地域などの規制で取得できない店舗もあります。独自に同資格を取得した「テクノキューブ」は、これら店舗の付属施設として車検・整備を中心としたピットサービスの一部を引き受けて、より迅速で充実したサービスをお客さまに提供することができます。まずはテストとして今回オープンした施設を運営し、他店舗へも順次設置して、店舗の最適配置にも役立てる考えです。

一方6月には、2輪用品の大型専門店「ライコランドTOKYO BAY 東雲」を、出店しました。広い店内にはアクセサリ、ウェアやお手入れ用品など2輪車好きも納得する豊富な商品を取り揃えており、隣接する「スーパーオートボックス」店舗と合わせて2輪車と4輪車両方の楽しみを同時に提供しています。

### コーポレートガバナンス

オートボックスグループは、株主の皆さま、お客さま、従業員、お取引先など全てのステークホルダー（利害関係者）に対しての社会的責任を果たすとともに、企業価値を継続的に高めていくため、経営責任の明確化と意思決定の迅速化および企業の競争力強化に努めています。この一環として2004年5月に行った経営機構の改革では、中期事業戦略に示した各戦略を強力に推し進めるための体制を整えました。またタイムリーディスクロージャーの充実、および経営上の組織体制の整備や経営に対する監視

機能の強化により、経営の透明性を高めることを最重要課題として考えており、取締役・監査役の一部を社外より招聘しています。同時に一企業市民としての役割を担うため、社会貢献活動と環境保全活動にも力を入れています。

### 株主還元

弊社は収益力の向上を重視するとともに、中長期的な視点で財務体質の改善を図りながら、株主の皆さまに対する利益還元と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実を基本的な方針として位置付けています。配当金については、安定的かつ漸増的な配当を基本に、業績および経営環境などを総合的に勘案して決定しています。併せて自己株式の取得も実施し、株主価値の向上に努めます。

中間配当については、特別要因によって中間純損失となったもののこれは一時的であることから当初予定の18円、加えて「オートボックス」ブランド誕生30周年を記念して記念配当3円を実施することとし、合わせて1株当たり21円を予定しています。

### 本社移転のご報告

去る2004年10月5日、本社機能を東京都港区から江東区に移転しました。コストと合理性を重視したオフィスでは、オープンスペース方式を採用して壁を無くし、意志疎通の円滑化と業務効率の向上を図っています。私をはじめ取締役、オフィサーもオープンスペースに自席を置き、相互に、また従業員との頻繁なやりとりを行って、フラットで風通しの良い環境を整えました。

株主の皆さまには、時代の流れをつかんで進化を続けるオートボックスグループへの変わらぬご厚情とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2004年11月

住野 公一

住野公一  
代表取締役 CEO



# 「オートバックス」ブランド誕生 30 周年

SHOWCASE

## ◆ カー用品のワンストップショップをつくりたい

「オートバックス」が誕生した1970年代前半のカー用品業界は、タイヤはタイヤ専門店、バッテリー・カーオーディオは電装店、オイル・アクセサリはガソリンスタンドと、商品ごとに購入する店が異なっていました。現在より車の性能が低く手をかける機会は多かったにも関わらず、お客さまは自分の希望を満たすために複数の店舗を回らなければならなかったのです。

当時、弊社の前身である大豊産業は、カーアクセサリやオイルをガソリンスタンドに卸す事業を主業務とし、この他に百貨店内に開いていたカー用品販売店の直営業務と自動車修理工場やタクシー会社に部品を販売する業務を行っていました。しかしお客さまの使い勝手を無視したカー用品市場の状況に疑問を持った弊社の創業者・住野利男は、アメリカ旅行中に見つけたカー用品専門店を参考に、「カー用品がみんな揃っていて、かつ専門の係員が取り付けもしてくれる店をつくりたい」と一念発起。主幹事業であったガソリンスタンド向けのカー用品卸業務を打ち切り、それまで日本になかったカー用品のワンストップショップ「オートバックス」業態を開発しました。



株式会社オートバックスセブン 創業者  
住野 利男

## ◆ 「AUTOBACS」ロゴに込めた思い

「オートバックス」の第一号店は1974年11月23日、大阪府東大阪市にオープンしました。出店準備期間は約半年。それまでガソリンスタンド向け卸しの用品センターとして使用していた用地を活用しました。新しい事業への熱意をもった従業員が熱心にお客さまに対応し、加えて豊富な品揃えと利便性で好評を博した『オートバックス東大阪店』は、すぐに連日大盛況となりました。

第一号店開店当時から現在まで使用されている店名とロゴは、店舗の前を通ったお客さまが一目で「ここではいろいろなカー用品を売っている」ということが伝わるようなビジュアルイメージを、と考案されたものです。



初期の広告

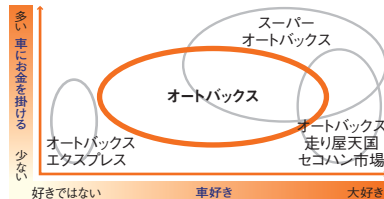
オートバックス東大阪店



「オートバックス」業態からスタートしたオートバックスグループは現在、オートバックス／スーパーオートバックス(Type I / Type II)／オートバックス走り屋天国セコハン市場／オートバックスエクスプレスなど複数の業態を展開しており、それぞれの業態の連携を活かして多種多様に広がる様々なドライバーのカーライフニーズに応える体制づくりを進めています。

今回は、皆さまに新しいカーライフスタイルの創造者として進化を続けるオートバックスグループへの理解を深めていただけるよう、オレンジの看板でお馴染みの「オートバックス」業態の始まりと現在までの歩みについてご紹介します。

#### 業態マトリックス



#### 店名「AUTOBACS」の由来

Appeal	魅力ある
Unique	個性的な
Tires	タイヤ
Oil	オイル
Batteries	バッテリー
Accessories	アクセサリ
Car Audio	カーオーディオ
Services	サービス

#### オートバックスロゴマーク

躍動感を感じさせる楕円の中に、店名にもある6つの商品(タイヤ・オイル・バッテリー・アクセサリ・カーオーディオ・サービス)を示すラインを配しています。左に向かって集まっていき、これら商品を一ヶ所に集めたことを示すロゴマークです。オレンジはそもそもの着想を得たアメリカ・カリフォルニアの太陽の色から、黒はその存在感と質実剛健のイメージから採用されました。



#### ◆ カー用品業界のNo.1 ブランドへ

その後「オートバックス」は、日本のモータリゼーションの進行もあいまって店舗数を増やし、オレンジの看板でお馴染みの高い知名度と良質な品揃え・サービスでお客さまからの信頼を得るようになりました。また早い時期にフランチャイズシステムを採用したことも、約500店舗という今日のオートバックスグループの一大ネットワークを築き上げる重要な転機になったといえます。1991年には海外第一号店として、地元資本とのフランチャイズ契約による『安托華士林店』を台湾にオープン。海外への進出も果たしました。



#### ◆ オートバックスグループの要として

現在のオートバックスグループにおいては、お客さまのニーズの多様化や社会状況の変化などに対応しお客さまに支持され続けるために、カー用品と周辺商品、サービスを取り扱う複数の業態を展開しています。「オートバックス」業態は現在最も多くの店舗を擁しており、今後も他業態との棲み分けを明確にしなが、オートバックスグループの要として安定的な成長に貢献していきます。

「オートバックスブランド」30周年を迎えた今年、これまでのご愛顧に感謝すると同時に、取り扱いサービスや商品の広がりやアピールするためのテレビCM放映や、店頭における各種キャンペーンを行っています。これからもオレンジの看板でお馴染みの「オートバックス」は、お客さまの身近で、便利で充実したカーライフの実現をお手伝いします。

#### 標準フォーマット

商圏	半径2～4km
商圏人口	6～13万人
売場面積	150坪以上
ビット	4～7台



## カー用品情報

# ついに実用化! ケータイカーナビ

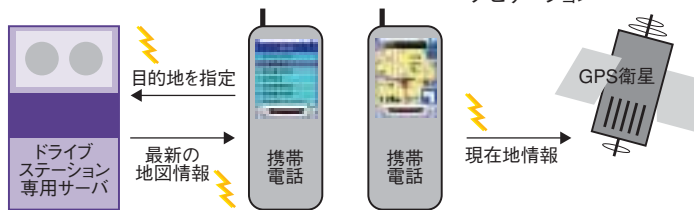
カーナビ、欲しいけどちょっと高い・・・  
いつもは使わないけど、遠出の時には便利かも・・・

そんな方にぴったりなのが、今回オートバックスグループの  
カー・イズ株式会社が開発・実用化したケータイカーナビです。

### ケータイカーナビって何?

ケータイカーナビでは、カーナビの通信機器と地図を映し出す画面の変わりに、携帯電話を使います。設置は簡単。専用スタンドを車のダッシュボードに取り付け、対応機種種の携帯電話をセットするだけでOK。携帯サイト「Drive Station(ドライブステーション)」に入会(月額315円)すれば準備万端、ご利用いただけます。出発前に行き先を設定すると、「ドライブステーション」のセンターサーバに保管されている最新の地図とGPS衛星による自車位置測位により、目的地までの案内を開始します。

- ①目的地を設定し、地図をダウンロード  
②GPSで現在位置を確認しながら、ナビゲーション



### カーナビの新しいトレンドをつくる

ケータイカーナビには、大きく三つの特徴があります。

- ① 従来のカーナビよりも手頃な価格
- ② いつも持ち歩く携帯電話での通信
- ③ 専用サーバに保管された最新の地図情報

オートバックスグループでは、従来のカーナビよりも気軽に利用できることから、これまでカーナビを敬遠してきたドライバー層を取り込んで新たな市場が生み出せるものと判断し、システムの開発に努めてきました。そしてこの度実現した画期的なケータイカーナビを利用するために必要なカーナビスタンドを、10月1日よりオートバックスグループで販売しています。現在のところ対応する携帯電話は限定されていますが、今後キャリア/機種ともに続々増やしていく予定で、利用者の拡大が期待されます。

オートバックスグループ店舗で発売中  
ケータイカーナビ専用スタンド

**Drive Station**  
**カーナビスタンド**

ドライブステーション カーナビスタンド DS-CS01

現在\*オートバックスグループで先行販売している「Drive Station カーナビスタンド DS-CS01」は、コンパクトなボディに機能を満載。対応機種種の携帯電話をセットすると、見やすい地図情報と充実した音声案内で目的地まで案内します。地図には残りの距離を大きな文字で表示するほか、コンビニやガソリンスタンドなどの周辺情報も表示。加えて便利なハンズフリー通話機能と充電機能も備え、快適なドライブをお手伝いします。

※ 2004年10月現在



■ ケータイカーナビとカーナビスタンド DS-CS01、対応キャリア/機種などの情報は、株式会社カー・イズのウェブサイトをご参照ください。  
<http://www.car-is.com/>



# ARTA活動報告

## ARTA ガライヤが2戦連続優勝!!



全日本GT選手権のGT300クラスに昨年から参戦している「ARTA Garaiya\*」が、2004年シリーズ第4戦「北海道グランGT選手権レース」に続き、第5戦の「もてぎGTチャンピオンレース」においてもクラス優勝を果たしました。9月5日の決勝当日は、前夜からの雨は上がったものの、コースコンディションは濡れた路面の滑りやすい状態。

水煙を上げてスタートした一周目、「ARTA Garaiya」はコース外へ飛び出すハプニングに見舞われましたが、その後は積極的なレース運びで着々と順位を上げました。そして輝ける結果はクラス優勝! 2戦続けての快挙に、監督、ドライバーはもちろんのこと、盛大な応援でチームを後押ししたスタンドも、大きな喜びにわきました。

※ オートバックスグループが開発したオリジナルスポーツカー「ASL Garaiya」をベースに、GT選手権のレギュレーションに適合する改造を施した車輛。2003年度より全日本GT選手権のGT300クラスに参戦。



ARTA (Autobacs Racing Team Aguri) プロジェクト：世界に通用する日本人ドライバーの育成をスローガンに、オートバックスが支援するモータースポーツ活動。元F1ドライバーの鈴木亜久里さんを中心に、国内外の主要なレースに参戦しています。

## ARTAをもっと身近に

ARTAはサーキットを飛び出し、オートバックスグループの店舗と連携して来店されるお客さまにもレースの楽しさを紹介しています。従業員による草の根レース活動の支援、また店舗でのARTAグッズ販売やポスターの掲出などでまずは興味を持っていただくことに始まり、お客さまをご招待してのイベント活動や走行会なども行っています。

10月19日にはこの一環として、九州・中国地区の一部のスーパーオートバックス店舗が合同で行った車好きのためのイベントに参加。本物のレーシングカーのデモ走行や展示など、レース活動についての紹介を行い、ドライバー、監督やレースクイーンとの交流もお楽しみいただきました。このような活動は今後も継続していく予定で、より多くのお客さまにオートバックスグループが行うレース活動のファンに、さらにはオートバックスグループ店舗のファンになっていただけるものと期待しています。

ARTAのウェブサイトでは、レースの結果や今後の予定、ドライバーの紹介などの基本情報に加え、フォトギャラリーでサーキットを疾走するARTAマシンの勇姿もご覧いただけます。

<http://www.autobacs.com/motorsports/>

# 財務報告

## 連結貸借対照表

単位：百万円

	第57期 (平成16年3月31日現在)	第57期中間期 (平成15年9月30日現在)	第58期中間期 (平成16年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>	<b>94,358</b>	<b>86,035</b>	<b>87,538</b>
現金及び預金	41,316	33,486	37,658
受取手形及び売掛金	12,456	10,059	10,504
有価証券	4,776	6,302	3,142
たな卸資産	18,731	19,854	19,746
繰延税金資産	2,195	2,545	2,533
短期貸付金	1,031	—	1,096
未収入金	13,372	12,003	11,959
その他	1,628	3,674	2,001
貸倒引当金	△1,149	△1,890	△1,102
<b>固定資産</b>	<b>108,402</b>	<b>111,013</b>	<b>108,033</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>60,294</b>	<b>62,065</b>	<b>55,226</b>
建物及び構築物	26,561	27,289	25,408
土地	26,064	25,981	22,345
その他	7,668	8,794	7,472
<b>無形固定資産</b>	<b>3,079</b>	<b>2,837</b>	<b>3,187</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>45,028</b>	<b>46,110</b>	<b>49,619</b>
投資有価証券	12,277	13,858	16,293
長期貸付金及び長期差入保証金	28,054	28,809	28,152
繰延税金資産	4,782	2,917	5,297
その他	1,687	1,739	1,848
貸倒引当金	△1,773	△1,214	△1,972
<b>資産合計</b>	<b>202,760</b>	<b>197,048</b>	<b>195,572</b>
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>	<b>33,684</b>	<b>29,385</b>	<b>30,173</b>
支払手形及び買掛金	14,136	13,454	12,670
短期借入金	2,130	2,275	2,875
未払法人税等	3,525	2,627	2,373
その他	13,891	11,028	12,254
<b>固定負債</b>	<b>20,835</b>	<b>21,508</b>	<b>19,066</b>
社債	8	8	8
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	10,000
長期借入金	1,680	2,208	571
退職給付引当金	1,394	1,374	506
役員退職給与引当金	159	159	115
その他	7,592	7,756	7,864
<b>負債合計</b>	<b>54,519</b>	<b>50,893</b>	<b>49,240</b>
<b>(少数株主持分)</b>			
<b>少数株主持分</b>	<b>708</b>	<b>516</b>	<b>622</b>
<b>(資本の部)</b>			
<b>資本金</b>	<b>31,958</b>	<b>31,958</b>	<b>31,958</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>32,241</b>	<b>32,241</b>	<b>32,241</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>88,651</b>	<b>85,624</b>	<b>86,859</b>
その他有価証券評価差額金	192	322	50
為替換算調整勘定	△400	△120	△286
自己株式	△5,111	△4,388	△5,113
<b>資本合計</b>	<b>147,532</b>	<b>145,638</b>	<b>145,709</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>202,760</b>	<b>197,048</b>	<b>195,572</b>

## 連結損益計算書

単位：百万円

	第57期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第57期中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)
<b>売上高</b> .....	<b>227,077</b>	<b>107,746</b>	<b>107,209</b>
売上原価 .....	159,271	75,575	75,292
販売費及び一般管理費 .....	61,595	30,235	29,669
<b>営業利益</b> .....	<b>6,210</b>	<b>1,935</b>	<b>2,247</b>
営業外収益 .....	7,009	3,359	3,805
営業外費用 .....	2,738	1,441	1,199
<b>経常利益</b> .....	<b>10,480</b>	<b>3,853</b>	<b>4,853</b>
特別利益 .....	1,283	225	607
特別損失 .....	2,137	76	5,027
<b>税金等調整前当期純利益</b> .....	<b>9,626</b>	<b>4,002</b>	<b>432</b>
法人税、住民税及び事業税 .....	5,948	2,593	2,289
法人税等調整額 .....	△1,764	△356	△674
少数株主損失 .....	1	8	102
<b>中間(当期)純利益(損失：△)</b> .....	<b>5,443</b>	<b>1,773</b>	<b>△1,080</b>

- 注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 37,729百万円  
 2. 1株当たり中間純損失 30円45銭  
 3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

# 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	第57期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第57期中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>13,807</b>	<b>5,039</b>	<b>2,026</b>
税金等調整前中間(当期)純利益	9,626	4,002	432
減価償却費	5,798	2,802	2,652
減損損失	—	—	4,384
売上債権の増減額(増加:△)	△219	3,582	3,356
たな卸資産の増減額(増加:△)	△1,022	△2,112	△1,013
その他	3,660	△1,302	△4,749
小計	17,843	6,972	5,063
利息及び配当金の受取額	827	434	434
利息の支払額	△97	△57	△27
法人税等の支払額	△4,765	△2,309	△3,443
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△645</b>	<b>△1,543</b>	<b>△4,796</b>
有形及び無形固定資産の取得による支出	△7,894	△4,498	△3,570
有価証券・投資有価証券の取得・売却	5,423	2,228	△2,148
その他	1,824	726	922
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,605</b>	<b>6,411</b>	<b>△856</b>
短期借入金の増減額(減少:△)	△1,509	△780	△487
長期借入れによる収入	686	120	119
長期借入金の返済による支出	△972	△516	—
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	10,000	10,000	—
自己株式取得による支出	△2,503	△1,792	△3
配当金の支払額	△1,303	△659	△638
その他	207	39	154
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△37</b>	<b>7</b>	<b>34</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(減少:△)</b>	<b>17,730</b>	<b>9,915</b>	<b>△3,592</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>23,437</b>	<b>23,437</b>	<b>41,155</b>
<b>連結子会社除外に伴う現金及び現金同等物減少額</b>	<b>△12</b>	<b>△12</b>	<b>—</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>41,155</b>	<b>33,340</b>	<b>37,563</b>

# 貸借対照表(単体)

単位：百万円

	第57期 (平成16年3月31日現在)	第57期中間期 (平成15年9月30日現在)	第58期中間期 (平成16年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>	<b>88,783</b>	<b>82,542</b>	<b>82,404</b>
現金及び預金	36,673	29,421	34,160
受取手形及び売掛金	16,090	13,441	13,291
有価証券	4,776	6,302	3,142
商品	8,005	9,277	8,573
繰延税金資産	1,325	1,687	1,462
短期貸付金	9,846	11,853	10,564
未収入金	12,708	11,505	11,496
その他	1,047	1,897	1,447
貸倒引当金	△1,690	△2,845	△1,733
<b>固定資産</b>	<b>110,471</b>	<b>113,295</b>	<b>110,725</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>49,404</b>	<b>50,374</b>	<b>43,937</b>
建物及び構築物	23,677	24,591	22,623
土地	23,020	22,937	18,793
その他	2,706	2,845	2,519
<b>無形固定資産</b>	<b>2,657</b>	<b>2,867</b>	<b>2,482</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>58,408</b>	<b>60,053</b>	<b>64,306</b>
投資有価証券	10,780	12,010	14,925
長期貸付金及び長期差入保証金	36,321	35,313	37,086
繰延税金資産	6,360	4,601	6,873
その他	11,844	11,402	12,430
投資損失引当金	△2,329	△973	△2,142
貸倒引当金	△4,569	△2,299	△4,867
<b>資産合計</b>	<b>199,254</b>	<b>195,838</b>	<b>193,130</b>
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>	<b>30,738</b>	<b>27,714</b>	<b>27,236</b>
買掛金	12,764	11,829	11,604
短期借入金	—	642	—
未払法人税等	1,924	2,393	1,940
その他	16,049	12,848	13,692
<b>固定負債</b>	<b>18,642</b>	<b>19,045</b>	<b>18,133</b>
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	10,000
退職給付引当金	905	891	—
役員退職給与引当金	119	119	115
その他	7,617	8,034	8,017
<b>負債合計</b>	<b>49,380</b>	<b>46,759</b>	<b>45,370</b>
<b>(資本の部)</b>			
<b>資本金</b>	<b>31,958</b>	<b>31,958</b>	<b>31,958</b>
<b>資本剰余金(資本準備金)</b>	<b>32,241</b>	<b>32,241</b>	<b>32,241</b>
<b>利益剰余金(利益準備金+その他の剰余金)</b>	<b>90,562</b>	<b>88,910</b>	<b>88,593</b>
利益準備金	1,296	1,296	1,296
任意積立金	82,131	82,131	85,981
中間(当期)未処分利益	7,133	5,481	1,315
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>192</b>	<b>337</b>	<b>50</b>
自己株式	△5,080	△4,369	△5,083
<b>資本合計</b>	<b>149,874</b>	<b>149,078</b>	<b>147,760</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>199,254</b>	<b>195,838</b>	<b>193,130</b>

## 損益計算書(単体)

単位:百万円

	第57期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第57期中間期 (自平成15年4月1日 至平成15年9月30日)	第58期中間期 (自平成16年4月1日 至平成16年9月30日)
<b>売上高</b> .....	<b>199,490</b>	<b>95,267</b>	<b>92,414</b>
売上原価 .....	158,048	75,594	73,895
販売費及び一般管理費 .....	34,311	17,176	16,392
<b>営業利益</b> .....	<b>7,130</b>	<b>2,495</b>	<b>2,126</b>
営業外収益 .....	6,370	3,059	3,460
営業外費用 .....	1,270	658	570
<b>経常利益</b> .....	<b>12,230</b>	<b>4,896</b>	<b>5,017</b>
特別利益 .....	1,180	225	950
特別損失 .....	4,719	461	5,910
<b>税引前当期純利益</b> .....	<b>8,692</b>	<b>4,660</b>	<b>57</b>
法人税、住民税及び事業税 .....	5,383	2,354	1,865
法人税等調整額 .....	△1,753	△461	△551
<b>中間(当期)純利益(損失:△)</b> .....	<b>5,062</b>	<b>2,766</b>	<b>△1,256</b>
<b>前期繰越利益</b> .....	<b>2,714</b>	<b>2,714</b>	<b>2,571</b>
<b>中間配当額</b> .....	<b>643</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
<b>中間(当期)未処分利益</b> .....	<b>7,133</b>	<b>5,481</b>	<b>1,315</b>

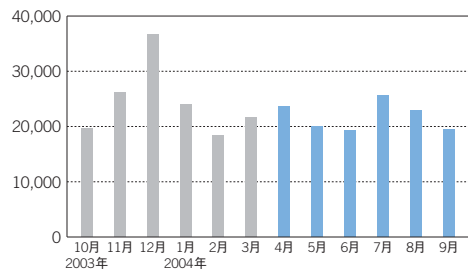
- 注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額  
当中間期 27,794 百万円  
2. 一株当り中間純損失 37 円 47 銭  
3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 業態別店舗数

	第57期 (平成16年3月31日現在)	第57期中間期 (平成15年9月30日現在)	第58期中間期 (平成16年9月30日現在)
スーパーオートバックス:	54	48	57
 Type I	6	6	6
 Type II	48	42	51
 オートバックス	421	427	415
 オートハローズ	16	16	16
 オートバックスエクスプレス	4	4	4
 オートバックス走り屋天国セコハン市場	22	21	24
 オートバックス・カーズ	16	14	16
海外(スーパーオートバックス、オートバックス)	11	11	12
合計	544	541	544

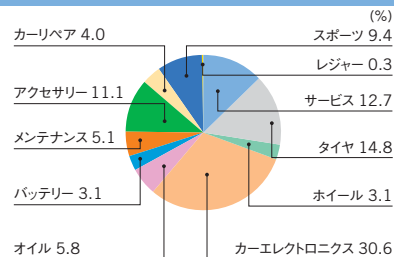
### 全チェーン店舗小売売上高\*

(百万円)



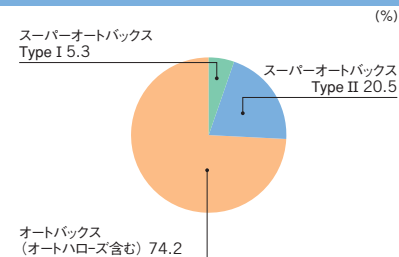
### 商品別全チェーン店舗小売売上高構成比\*

(第58期中間期)



### 業態別全チェーン店舗小売売上高構成比\*

(第58期中間期)

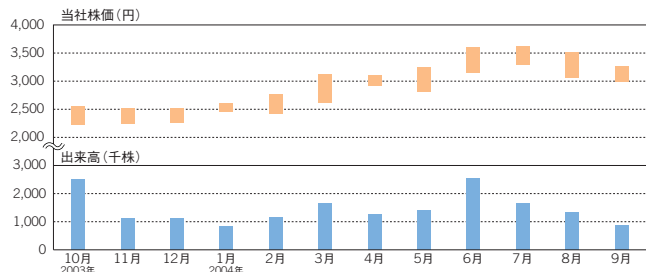


\* オートバックス、スーパーオートバックス Type I、スーパーオートバックス Type II、オートハローズ業態を対象としており、その他業態は含んでおりません。

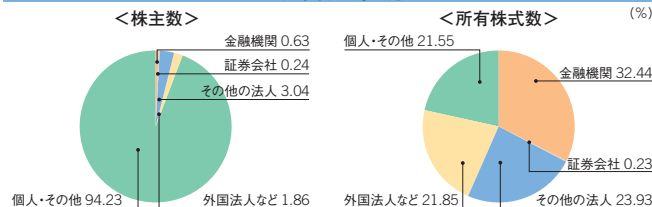
# 株式情報 (2004年9月30日現在)

発行する株式の総数	109,402,300株
発行済株式の総数	37,643,742株
株主数	11,138名
決算日	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	利益配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
	なお臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
1単元の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 <a href="http://www.autobacs.co.jp">http://www.autobacs.co.jp</a> において提供いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所、ロンドン証券取引所
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
名義書換事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 電話照会先	東京都府中市日鋼町1番10(〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
住所変更等用紙のご請求	0120-175-417
その他のご照会	0120-176-417
名義書換取次所	住友信託銀行株式会社、本店および全国各支店
大株主一覧	有限会社スミノホールディングス 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 株式会社オートバックスセブン ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント 財団法人在宅医療助成勇美記念財団 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 住野 正男 ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リュウエスタックスエグゼクティブレティレーションファンズ 住野 公一

## 株価推移 (大阪証券取引所)



## 所有者別状況



## 住所変更の手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きをお願い致します。株主招集ご通知や配当金などをお届けできなくなります。

ご変更は、住友信託銀行㈱の電話照会先(フリーダイヤル)までご連絡ください。なお、証券保管振替制度をご利用の株主さまについては、お取引の証券会社で変更手続きを行ってください。

## 株主優待制度について

『オートバックス』、『スーパーオートバックス』などで、1,000円(消費税込み)のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券(300円値引)を、3月末日(6月発送)と9月末日(12月発送)の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。

### ご参考

- 配布枚数(半期毎): 所有株式数 100株~999株 優待券25枚  
1,000株~ 優待券50枚
- 優待券は日本国内のオートバックス、スーパーオートバックス、オートバックス走り屋天国セコハン市場、オートバックスエクスプレスおよびオートハロースの全店舗でご利用いただけます。ただし、オートバックス・カーズ、海外店舗ではご利用いただけません。
- 優待券は燃料、車両、保険、税金、飲食、タバコ、特価商品などにはご利用いただけません。  
※車検につきましては、税金、重量税、印紙代、自賠責保険料にはご利用いただけません。車検基本料、検査手続き代行料、完成検査料、その他整備工賃、部品代にはご利用いただけません。(手続き費用は、一部店舗によって名称が異なります。)
- 優待券は現金およびオートバックスの商品券によるお買い上げ時にご利用いただけます。



# 会社情報 (2004年10月5日現在)

商号	株式会社オートバックスセブン (AUTOBACS SEVEN CO., LTD.)
創業	1947年2月
資本金	319億5千8百万円

**主な事業内容** 当社は、各種自動車用品部品の委託製作、販売、輸出入を主要事業として、小売総合専門店を直営店とフランチャイズ店で並行して全国にチェーン展開しております。

## 役員一覧<sup>\*1</sup>

### 取締役兼 オフィサー

#### 代表取締役

住野 公一 CEO

#### 取締役

井手 秀博 財務基盤整備担当

住野 耕三 新規事業担当

住野 泰士 国内店舗子会社担当

経森 康弘 Co-COO  
トータルカーライフ事業戦略推進統括

中田 康雄<sup>\*2</sup> (カルビー(株)取締役副社長)

野上 明 COO

松尾 隆 経営戦略推進担当 兼 経営戦略推進室長

横井 英昭 人材基盤整備・システム基盤整備担当

湧田 節夫 Co-COO  
エリアドミナント戦略推進統括

#### 監査役

小山 勝士 常勤監査役

森野孝太郎<sup>\*3</sup> 常勤監査役

吉田 治邦<sup>\*3</sup> 常勤監査役

久保田達夫<sup>\*3</sup> 監査役  
(WL Ross & Co. LLC マネージング・ディレクター)

主要な事業所	本社	(東京都江東区)
	北日本 エリア事業部	(仙台市泉区)
	北関東エリア事業部	(千葉県市川市)
	南関東エリア事業部	(千葉県市川市)
	中部エリア事業部	(名古屋市名東区)
	関西エリア事業部	(大阪府吹田市)
	南日本 エリア事業部	(福岡市博多区)
	欧米事業部	(東京都江東区)
	アジア事業部	(東京都江東区)
	中国事業部	(東京都江東区)
	U-PARTS事業部	(東京都江東区)
	東日本ロジスティクスセンター	(千葉県市川市)
西日本ロジスティクスセンター	(兵庫県美囊郡)	

### オフィサー 取締役を除く

伊藤 浩明 北日本 エリア事業部長

江本 吉弘 南日本 エリア事業部長

釜田 尚文 南関東エリア事業部長

榎 宏介 北関東エリア事業部長

小林喜夫已 海外事業戦略推進担当 兼 海外事業戦略推進室長  
兼 アジア事業部長

小平 智志 戦略推進基盤整備担当  
兼 運営企画管理部長

澤田 和良 車検整備事業担当

志野 修市 中国事業担当 兼 中国事業部長

角倉 正親 業態開発事業担当

武田 健一 トータルカーライフ事業戦略推進担当  
兼 カー用品事業担当  
兼 トータルカーライフ事業戦略推進室長

戸出 譲 中部エリア事業部長

松村 晃行 関西エリア事業部長

深山 義郎 C@RS 事業担当 兼 C@RS 事業推進部長

森本 弘徳 エリアドミナント戦略推進担当  
兼 エリアドミナント戦略推進室長

森本 真臣 U-PARTS 事業担当

<sup>\*1</sup> 50音順 (CEO、監査役除く) <sup>\*2</sup> 印は社外取締役

<sup>\*3</sup> 印は社外監査役

# トピックス

6月

- ◆ 2輪用品専門店「ライコランドTOKYO BAY 東雲」オープン(東京都)
- ◆ ETC 車載器専売モデル「EP-223A」(三菱電機製)を発売
- ◆ タイ王国第2号店「AUTOBACS PATTANAKARN STORE」オープン

7月

- ◆ カーAV 機器盗難警報装置専売モデル「AV GURD AVG-002」を発売
- ◆ 日本初のテレビ電話を利用した自動車保険販売サービスの取り扱いを開始\*

- ◆ 車検の専門工場「テクノキューブ」1号店オープン(福岡県)

8月

- ◆ 「オートバックス アジアクロス カントリーラリー 2004」に協賛(タイ王国)
- ◆ 日本初の「ケータイ・カーナビ」を先行発売

9月

- ◆ スタッドレスタイヤ「North Trek N1 (ノーストレック エヌワン)」を発売

※一部店舗

2004年7月

## ピットサービス充実を図るためのテスト施設「テクノキューブ」1号店オープン

オートバックスグループは現在、車検・整備や板金・塗装などに注力しており、これらピットサービスの取り扱いは着実に増えつつあります。福岡県福岡市にオープンした「テクノキューブ」は車検を中心に、一般整備・定期点検、板金・塗装、ガラス補修などのピットサービスを既存オートバックス店舗から引き受け、近隣立地で行う工場のテスト施設です。今後は、敷地面積や用途地域などの問題でピット数を確保できない店舗に対して設置を推進し、十分な作業施設を確保してお客さま幅広いニーズにマッチしたピットサービスを目指します。



オートバックス福岡原店 テクノキューブ 営業時間：9:00～19:00(定休日なし)  
電話：092-852-1192 住所：福岡県福岡市早良区原4-5-8

2004年9月

## プライベートブランド スタッドレスタイヤの新製品「North Trek N1 (ノーストレック エヌワン)」



スタッドレスタイヤは、チェーンのように面倒な着脱の必要がなく、同等の滑り止め効果が得られるため、降雪エリアでの走行にぴったりです。「North Trek N1」は新技術の採用で、従来のモデルに比べ路面に密着する性能が大幅アップ。ますます滑りにくくなって、冬時期の安全走行をお約束します。雪の多い地域にお住まいお客さまはもちろん、スキーなどにお出かけの際にも、ぜひご用命ください。

発売サイズ：145/80 R12～215/60 R16  
の合計20サイズ  
価格：オープン価格

# オートバックスグループ ホームページのご紹介

<http://www.autobacs.co.jp/>



弊社の企業情報サイトです。会社案内、IR情報、ニュースリリースなどを閲覧いただけます。

<http://www.autobacs.co.jp/seven/ir/>



IR専用サイトです。財務情報や株価情報、株主情報などを掲載しています。過去のIR刊行物もご覧いただけますので、是非ご利用ください。

決算公告

財務ハイライト

IR資料 (月次情報、決算短信、有価証券報告書、アニュアルレポート、ファクトブック、株主通信、決算説明会資料)

株価情報

株主情報 (優待制度、株主メモ、FAQ)

IRに関するFAQ

資料請求

<http://www.autobacs.com/>

オートバックスグループのポータルサイトです。各業態・店舗や、商品、車検・整備などについてご案内しています。

IR情報に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

経営戦略推進室

IR・インフォグループ

電話 : 03-6219-8718

ファックス : 03-6219-8769

email : investors@autobacs.com

## 2005年版オートバックスオリジナルカレンダーをプレゼント!

平素よりのご愛顧に感謝して、IR活動へのご意見、また当株主通信のご感想をお寄せいただいた株主の皆さまより抽選で50名様に、未来のカーライフをイメージしたイラストがかわいらしい2005年版オートバックスオリジナルカレンダーをプレゼントいたします。



### 《応募要項》

官製ハガキに、下記1.から6.を明記の上、あて先住所までご送付ください。  
2004年12月15日の消印まで有効です。尚、当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

(本キャンペーンの連絡以外の目的で、ご応募いただいた方の個人情報を使用することはございません。)

1. IR活動へのご意見  
(情報の発信内容や方法/株主優待についてなど)
2. 当株主通信のご感想  
(面白かった記事/今後特集してほしい内容など)
3. 郵便番号/住所
4. 氏名
5. 年齢
6. 電話番号 (自宅/携帯電話)

あて先

〒135-8717

東京都江東区豊洲5-6-52 ISTビル

株式会社オートバックスセブン

経営戦略推進室 IR・インフォグループ

「カレンダープレゼント係」

※ 絵柄は変更になることがあります。



植物性インクを使用し、古紙配合率100%の再生紙に、水なし印刷をしています。